

資料2 讃美歌の生い立ち(歌詞のみ)

讃美歌 150 番 (A/B) は、復活節を祝うために歌われている多くの讃美歌の中でも特に素晴らしいものの一つです。ただ、原歌詞を意識した日本語讃美歌のタイトル(初行)の「悪魔」には戸惑いを禁じ得ませんが、類を見ない名訳の一つと言えます。原歌詞には悪魔に相当する語は見当たりません。しかし、主イエスの復活の意味と聖書が「ハレルヤ」と呼ばれる動機が分かると、この日本語歌詞は主イエスの復活を誉め讃えるうえで実に相応しいことに納得できるのではないのでしょうか。

次に、讃美歌 150 番歌詞の原作詞者について、「ポーリン・マカルピン著『さんびか物語』、つのぶえ社、1974 年(53-56 頁)」を部分的に引用しながらお話します。

原作詞者ミヒャエル・ヴァイセ (Michael Weisse、1480 頃～ 1542) はサイレジア(昔はドイツ、今はポーランド領の西南にある地方)に生まれ、優れた宗教改革時代の讃美歌作詞者の一人です。

彼はローマ教会の司祭となり、しばらく生まれ故郷のブレスラウ修道院に修道僧としての生活を続けましたが、神の不思議な摂理によってルターの著作と出会い、信仰の目をさまされ、霊的に生まれ変わられ、同修道院のもう二人の司祭と共にボヘミアに亡命しました。

当時ボヘミアでは、1415 年 7 月 6 日杭にかけられて火刑に処されたヤン・フスの支持者たちが結束し、貴族たちの間では反カトリックの同盟が結成されていました。

ヴァイセは、そこでボヘミア兄弟団の創立者並びに説教者となって有力な働きをし、1522 年には同兄弟団を代表して、ウィッテンベルグにいたルターを訪ね、その後ルター派と合流しました。

※ 1522 年は、ルターがヴォルムス帝国議会に召喚され帝国追放刑を受けた翌年

彼らの信仰は 1727 年に再建されたモラビア兄弟団に受け継がれ、メソジスト教会の創設者ジョン・ウェスレーにも影響を及ぼしたとのこと。

ヴァイセの代表作である讃美歌 150 番の原歌詞 "Christus ist erstanden Von der Marter alle" (主キリストは再びよみがえられる) は、非常によく似た名前の古いボヘミアの讃美歌にもとずいているようで、1531 年に彼自身が出版した讃美歌集に収録され、1858 年にキャサリン・ウインクワースによって英語 "Christ the Lord Is Risen Again!" に翻訳されました。

創作後 500 年近くもたった今日の私たちが、昔の聖徒たちと同様にこの讃美歌を通してイースターの喜びを味わい声高らかにハレルヤ！と歌うことが出来ることは驚きで有り非常な喜びです。